

2024
ズバリ! 的中



日本史

立命館大学

近世の歌舞伎について同一内容の問題

入試問題

2月4日実施 全学統一方式(文系)
II〔1〕〔2〕

II 次の文章〔1〕・〔2〕を読み、空欄〔A〕～〔K〕にもっとも適切な語句を記入し、かつ(a)～(d)の問いに答えよ。

〔1〕語り物としての浄瑠璃節は室町中期ごろに始まったとされる。はじめは扇拍子で語られていたが、慶長期ごろまでに伴奏楽器としての〔A〕や人形操りと結びつき、浄瑠璃姫の物語を人形劇として演ずるようになった。繊細で抒情的な上方の加賀節や、江戸で人気を博した豪放な金平浄瑠璃など、多様な曲調で語られる中で、とりわけ〔B〕が大坂でおこした一座は、1703年に近松門左衛門の最初の世話物「〔C〕」を上演して人気を博した。18世紀半ばにこの一座の座元をつとめた〔D〕は浄瑠璃作者としても有名で、「仮名手本忠臣蔵」をはじめ多くの作品を残した。〔D〕の弟子で近松の養子にあたる〔E〕も『本朝廿四孝』『新版歌祭文』などを書いて一座を支えた。

〔2〕歌舞伎は、たびたび幕府の統制を受けている。風紀・治安上の悪影響を恐れる幕府は元和から寛永にかけて〔F〕の禁令を数回出しており、1652年にはさらに〔G〕も禁止した。

河合塾

夏期講習
テーマ日本文化史演習
第5講 3

〔3〕 近世の芸能

次の文章を読んで、下の問いに答えよ。

庶民の嗜好が、芸能の繁栄につながることもある。

安土・桃山時代におこった浄瑠璃は、江戸時代の元禄の頃に竹本〔ア〕が大坂道頓堀に竹本座を創設し、諸流を集大成して〔ア〕節を完成させた。同じ頃、近松門左衛門が数多くの人形浄瑠璃の脚本を書いて人気を博した。徳兵衛と遊女お初的心中を描いた『曾根崎心中』や明の遺臣鄭成功による明の再興を題材とした「〔イ〕」などを代表とする彼の作品は、義理と人情の葛藤のなかに人の心情の温かさを美しく描き出し、〔ア〕節によって語られ、ひろく鑑賞された。

歌舞伎は、江戸時代に発達した日本の演劇で、〔ウ〕が1603年に創始したとされている。「かぶき」は「傾く」の名詞形である。当時、常態から「かぶいた」、異装の驕奢な姿で好色的・遊侠的行動をしたアウトローを「かぶき者」と呼んでいたが、この「かぶき」も同様に煽情的な芸であった。それゆえ平和を迎えた時流に乗って遊女たちがこれにない、たちまち大流行するに至った。

しかし遊女が主役の女歌舞伎は風俗を乱すという理由で1629年に禁止され、〔エ〕が演じるようになった。これが〔エ〕歌舞伎である。ところがこれも風俗を乱すとして1652年に禁止された。

そこで、〔エ〕を出演させないこと、物真似狂言尽くしを主体とするものの二つを条件として興行することが許された。この〔オ〕歌舞伎が、以後今日まで続く歌舞伎の源流である。

問1 文中の空欄〔ア〕～〔カ〕に適切な語句を入れよ。

問2 下線部aに関連して、浄瑠璃の伴奏に用いた琉球伝来の楽器は何か。